

第1回研究会での主な意見

モデル事業も含めた小型家電の回収について

- ・ 技術、輸送費の観点から、県単位での実施というよりも地域性で捉えた事業のあり方を検討する必要がある。
- ・ 消費地(=排出地)で一旦濃縮して回収設備へ運ぶ方法もある。地域の役割を明確にした上で、自治体を中心とした回収システムを検討することも議論してほしい。
- ・ 小型家電の回収方法にあっては回収の効率性だけではなく、例えば処理プラントまでの物流の効率性など様々な問題が発生する可能性があることも検討する必要がある。
- ・ 事業所で回収した一廃と産廃の区別の解釈において、一定のルール作りが必要であり、また一廃の越境移動の問題について、どのようにクリアしたのかも整理することが必要。
- ・ 市民への周知方法と回収量との関係、退蔵品の排出との関係、地域特性等の関係が把握できないか。
- ・ モデル事業を通じてデータを積み上げると同時に、モデル事業を拡大していくための課題も抽出していくことが重要ではないか。

レアメタル回収について

- ・ 最近注目されているレアメタルの一般の知識と、実際に製品で取り扱われているレアメタルの現状とのギャップを埋めるために、リサイクル情報を含めた整理も必要である。
- ・ 消費、抽出というターミノロジーを明確にすることも重要である。
- ・ 現在の価値基準での経済性だけでなく、我が国の資源戦略の視点まで含めて長期的な時間軸でレアメタル回収を考える必要がある。

環境管理について

- ・ 有害性の基準については、研究会では限定しないものの、海外との資源循環という視点からは、バーゼル条約における基準も念頭に入れる必要がある。
- ・ 有害物質の管理の視点からは、有害物質だから使用してはいけないという議論ではなく、適正にリサイクルして有害性を顕在化させない仕組みが重要であり、有害物質も使いこなすための環境管理技術、システムを議論していく必要がある。

以上